

3 各教科等の言語能力の整理

国語科における「言語能力」の整理

国語科における言語能力		
【知識及び技能】 ○言葉の働き○話し言葉と書き言葉○漢字○語彙○文や文章○言葉遣い○表現の技法○音読、朗読 【思考力、判断力、表現力等】 「書くこと」領域 ○題材の設定、情報の収集、内容の検討○構成の検討○考えの形成、記述○推敲○共有		
第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
○題材の設定、情報の収集、内容の検討		
・経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。	・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりし、伝えたいことを明確にすること。	・目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。
○構成の検討		
・自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章構成を考えること。	・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。
○考えの形成、記述		
・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。	・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
○推敲		
・文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。	・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。	・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。
○共有		
・文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。	・書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	・文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。

言語能力とその育成方法

言語能力	育成方法	育成方法の詳細
○構成の検討 ○考えの形成、記述	・既習の方略を選択させる。	・既習の方略を想起させ、適していると判断したものを選択し、考えたり書いたりしながら良し悪しを判断させる。
○推敲	・他者の意見を取り入れ調整させる。	・自分の表現を自己評価できるように交流活動を設定し、場合によっては自分の表現を練り直させる。
○共有	・自らの学びを整理させる。	・伝えたいことを表現することと、「読みの観点」がどのように効果的だったかを自己評価させる。

社会科における「言語能力」の整理

社会科における言語能力			
<ul style="list-style-type: none"> ・情報を適切に調べまとめる。 →調べたことを「ノート」に整理したり、単元終末のパフォーマンスとして「新聞」「パンフレット」「ポスター」作りに取り組んだりする。 ・考えたことや選択・判断したことを根拠や理由などを明確にして論理的に説明したり、他者の主張につなげ立場や根拠を明確にして議論したりする。 →論題やテーマを設定して「議論」や「討論」を行う。 ・単元を通して考えてきたことを整理し、自分の考えを文章化する。 →単元終末のパフォーマンスとして「意見文」「提案文」に取り組む。 			
第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
<ul style="list-style-type: none"> ・調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けること。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことや選択・判断したことを文章で記述したり図表等に表したことを使って説明したりして表現する力を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことや選択・判断したことを根拠や理由などを明確にして論理的に説明したり、他者の主張につなげ立場や根拠を明確にして議論したりする力を養うこと。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・調査活動を行ったり、議論や討論を行ったりする活動を通して考えてきたことを基に、自分の考えを整理し、意見文や提案文などの形式で文章化すること。 			

言語能力とその育成方法

言語能力	育成方法	育成方法の詳細
<ul style="list-style-type: none"> ・事実から疑問や気付きを出し、社会にみられる課題を見いだす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画づくりを児童とともに行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・事実から疑問や気付きを出し合い、社会にみられる課題を見いだす。その課題解決に向けて、調べるべき問いや単元を貫く問いを設定し、学習計画を立て見通しをもつ。
<ul style="list-style-type: none"> ・情報を適切に調べまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的資料を基にノートにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べるべき問いを調査活動、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、ノートにまとめる。
<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことや選択・判断したことを根拠や理由などを明確にして論理的に説明したり、他者の主張につなげ、立場や根拠を明確にして議論したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議論や討論を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に見られる課題の解決に向けて、よりよい発展を考えたり社会への関わり方を選択・判断したりする。それについて、議論を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して考えてきたことを整理し、自分の考えを文章化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元終末のパフォーマンスを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元終末のパフォーマンスとして「意見文」「提案文」などに取り組み、関係諸機関に提出する。

算数科における「言語能力」の整理

算数科における言語能力			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察すること。 ・ 基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察すること。 ・ 言葉や式、図、数、表、グラフなどの数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりすること。 ・ 考えたことや工夫したことなどを数学的な表現を用いて伝え合い共有したり、見いだしたことや思考の過程、判断の根拠などを数学的に説明したりすること。 			
第1学年	第2・3学年	第4・5学年	第6学年
<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方を考え、自分なりに表現すること。 ・ ものごとに対して自分が思ったことや気づいたことを自分なりの方法で表すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方を考察すること。 ・ 身の周りにある事象の特徴に着目し、自分の考えを相手に伝えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に合った表現方法を用いて、数の性質や計算の仕方などを考察し、説明すること。 ・ 表や式、グラフを用いて的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりしたことを相手に伝えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方などを考察し、根拠を明らかにして説明すること。 ・ 言葉や式、図、表、グラフなどを用いて、自分の考えや解決の過程、及び結果を相手に分かりやすく伝えること。

言語能力とその育成方法

言語能力	育成方法	育成方法の詳細
① 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の事象や算数の学習場面から問題を見だし、解決していく授業展開にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提示の仕方や発問を工夫し、児童と一緒に問いをつくる。 ・ 教師の問い返しによって、着眼点や発想の源を言語化し、働かせた見方・考え方を顕在化する。
② 基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「数学的な見方・考え方」を働かせ、数学的活動を通して、問題を解決するよりよい方法を見いだしたり、意味の理解を深めたり、概念を形成したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「もっと他の方法でもできるか」（多様な考え方を引き出す）、「より簡単な方法はどれか」（考え方の洗練）、「問題を少し変えたとしたら、どんな問題が作れるか」（問題の発展）など、ねらいに合わせた発問をすることで、発展的に考えられるようにし、新たな問いを見いだすことができるようにする。
③ 言葉や式、図、数、表、グラフなどの数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の知識と関連付けながら自分の考えを構築したり、目的に応じて表現したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達段階に応じて、具体物、言葉、式、図、数、表、グラフなどの数学的な表現を用いて考えたり、自分の考えを表現し伝え合ったりする場を設定する。
④ 考えたことや工夫したことなどを数学的な表現を用いて伝え合い共有したり、見いだしたことや思考の過程、判断の根拠などを数学的に説明したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉や式・図・表・グラフなどを用いて、自分の考えや解決の過程、及び結果を相手に分かりやすく伝えるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの考えに付け足しをしたり、友だちの考えを説明したりする活動を取り入れることで、それぞれの考えのよさに気づき、よりよい考えに高めることができるようにする。

理科における「言語能力」の整理

理科における言語能力			
<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象から、気付きを見出し、学習問題を立てる。 ・学習問題について、予想や仮説を立てて、自分の考えを書く。 ・観察実験の結果を整理し、考察する。 ・自分が立てた予想や仮説と問題解決で得られた結論を整理する。 			
第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象の差異点や共通点から問題を見出すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想や仮説を既習の内容や生活経験と結び付けて考えたり、説明したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想や仮説を基に、解決の方法を考えたり説明したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察記録や実験データを表に整理したりグラフに処理したりすること。 ・表やグラフなどを活用しつつ科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりすること。

言語能力とその育成方法

言語能力	育成方法	育成方法の詳細
①自然の事物・現象を観て、気付きを見出し、学習問題を立てる。	・学習問題につながる事象提示を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が演示実験を行い、児童に気付いたことを発表したりノートに書いたりするよう促す。 ・気付きを交流したり、教師が価値付けたりすることで学習問題を立てる。
②学習問題について、予想・仮説を立てて、自分の考えを書く。	・学習問題に関わる自分の考えを書く。	・学習問題に関わる自分の考えが書けるように、何をどのように調べることができるかを図や言葉を使って、予想や仮説を立てて自分の考えを書く。
③観察実験の結果を整理し、考察する。	・観察結果をノートにまとめ、得られた結果をもとに、学習問題の解決に結びつけるようにノートに考察を書く。	・観察結果をより整理しやすくするために、図や表などを活用した整理の仕方を考えてまとめたり、観察実験から得られた結果をもとにして、結果と考察を区別して書いたりする。
④自分が立てた予想や仮説と問題解決で得られた結論を整理する。	・観察実験の結果から考察し、学習問題の結論としてノートに整理する。	・自分が立てた予想や仮説と問題解決で得られた結論を整理して、自分の考えが再構築できるようにノートにまとめる。

生活科における「言語能力」の整理

生活科における言語能力	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや願いを実現させるために人やもの、ことに対して働きかけようとする事。 ・対象との関わり、働きかけを通して、対象を捉えること。 ・気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどについて、他者と伝え合うこと。 ・具体的な活動や体験を通して気付いたことを表現できること。 	

言語能力とその育成方法

言語能力	育成方法	育成方法の詳細
①自分の思いや願いを実現させるために人やもの、ことに対して働きかけようとする事。	①自分が知りたい、関わりたい対象に対して、様々な方法を通してアプローチする機会を設ける。	①調べ活動やインタビュー活動等を通して、対象のよさや自分との関わりについて認識を深める。
②対象との関わり、働きかけを通して、対象を捉えること。	②比べたり、見立てたりする試行（思考）活動を行いながら気づきを言語化させていく。	②見通しと振り返りを充実させ、考えたことや分かったことを意識する。
③気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどについて、他者と伝え合うこと。	③直接的に伝えたり、質問に対して答えたりしながら、気付いたこと等を発信させる。	③発話やカードを用いての紹介活動を通して、気付いたことの自覚化を図ると共に、気づき同士を結び付ける。
④具体的な活動や体験を通して気付いたことを表現できること。	④言葉や絵、動作、劇化などの多様な方法により表現することで、それまで気づけなかった対象のよさや自分の頑張りに気付かせる。	④対象との関わりから気付いたことを発表する場を設けたり、他者と一緒に活動する機会をつくったりすることで表現手法や内容を吟味し、表現スキルを高めさせる。

音楽科における「言語能力」の整理

表現領域	<ul style="list-style-type: none"> 音や音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えたことを言語化する。 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いたこと／理解したことを言語化する。 音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思い／思いや意図を言語化し、交流する。また、音や音楽にそれらを生かし伝え合う。
鑑賞領域	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことを言語化し、伝え合う。 音楽によって喚起されたイメージや感情を言語化する。 曲想と音楽の構造との関わりについて言語化する。 自分にとっての音楽のよさや面白さなどを見だし、言語化する。

言語能力と育成方法

言語能力	育成方法	育成方法の詳細
①曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いたこと・理解したことを言語化する。	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を構成する諸要素の正しい理解を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の働きかけの工夫（問い返し、価値付け） 板書による整理（知覚と感受の関連付け）
②音楽によって喚起された自分のイメージや感情について言語化する。	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の可視化 語彙を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 感情を表す言葉、絵、色、線などを使って表す活動 体や物を使って音楽を表す活動 語彙表の作成、活用
③表現に対する思い・思いや意図を言語化し、交流する。	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの工夫 試行錯誤の時間の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの演奏を聴き合い、その工夫を予想したり伝えたりする。 モデル提示の工夫（教師の模範演奏、映像教材の活用、友達演奏を聴くなど） 思いや意図を表すための試行錯誤をくり返し設定する。
④曲や演奏の楽しさ・よさについて見出したことを言語化する。	<ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 1単位時間または題材中の曲ごとのまとめとして、その曲や演奏の楽しさ・よさについて振り返り、交流する。
⑤自分の学びを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ふり返しシートの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 題材全体の学びの跡を残すワークシートの作成、活用

図画工作科における「言語能力」の整理

図画工作科における言語能力		
<ul style="list-style-type: none"> ・表現する活動において、思い付いたことや表したいこと、イメージしたことを言語化すること。また表し方や主題について、考えたことを言語化すること。 ・鑑賞する活動において、感じ取ったり考えたりしたことを言語化すること。また、他者と交流すること。 		
第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
<ul style="list-style-type: none"> ・好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること。 ・造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。 ・造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。 ・造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。

言語能力とその育成方法

	言語能力	育成方法	育成方法の詳細
表 現	①表現する活動において、思い付いたことや表したいこと、イメージしたことを言語化すること。また、表し方や主題について、考えたことを言語化すること。	・思いやイメージを書き出したり、話し合ったりする場を設定する。	・イメージマップやアイデアスケッチに自分の思いやイメージを言語化して表出することで、活動への見通しを持ったり、思いを高めたりする。
		・活動中の気づきを話し合う。	・活動中の気づきや疑問に思ったことなどを友達と交流することで、見方や感じ方を広げ、活動に生かすことができるようにする。
		・活動の振り返りを行う。	・作品への思いや学びの成果を振り返ることで、活動を価値付け、自分の生活や次時の活動につなげるようにする。
鑑 賞	②鑑賞する活動において、感じ取ったり考えたりしたことを言語化すること。また、他者と交流すること。	・思いを書き出したり、話し合ったりする場を設定する。	・鑑賞の対象から感じ取ったり考えたりしたことを記述したり、友達と交流したりする。
		・活動中の気づきを話し合う。	・鑑賞の視点を提示することで、造形的な視点を持って活動ができるようにする。
		・活動の振り返りを行う。	・友達と考えを交流することで、見方や感じ方を広げたり、深めたりする。
			・活動を通して気づきを記述したり、友達と交流したりすることで、活動を価値付け、自分の生活や次時の活動につなげるようにする。

体育科における言語能力の整理

体育科における言語能力			
<ul style="list-style-type: none"> ・運動や健康についての自己の課題を見付け、言語化すること。 ・自己の課題に応じて、運動の行い方や解決方法について考えたことを言語化すること。 ・自己の健康課題について習得した知識及び技能を活用し、解決に向けて考えたことを言語化すること。 ・自己の課題について考えたことを、言葉や文章及び動作などで表したり、友達や教師などに理由を添えて伝えたりすること。 			
学年	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
運動領域	<ul style="list-style-type: none"> ・自己やチームの動きから、課題を見付けること。 ・自己やチームの課題に対して考えたことや、活動や場を工夫したことを書くこと。 ・自己やチームの課題の解決のために考えたことを、言葉や文章及び動作などで表したり、友達や教師などに理由を添えて伝えたりすること。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自己やチーム、友達の動きから課題を見付けること。 ・課題に応じて、運動の行い方や解決方法を考え、活動や場を工夫したことを書くこと。 ・自己やチーム、友達の課題解決に向けて考えたことを言葉や文章及び動作で表したり、理由を添えて相手に分かりやすく伝えること。
保健領域			<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活について課題を見付け、その解決に向けて考えたことを言語化し、友達や教師などに伝えること。
			<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康とけがの防止について課題を発見し、その解決に向けて考えたことを言語化し、友達や教師などに分かりやすく伝えること。
		<ul style="list-style-type: none"> ・発育・発達について課題を見付け、その解決に向けて考えたことを言語化し、友達や教師などに伝えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の予防について課題を発見し、その解決に向けて考えたことを言語化し、友達や教師などに分かりやすく伝えること。

言語能力とその育成方法

	言語能力	育成方法	育成方法の詳細
運動領域	①運動についての自己の課題を見付け、言語化する。	・運動の面白さを児童と共有し、課題に向かって活動できる学習過程にする。	・単元を貫く問いを設定することで、面白さに紐づいた探究的課題を設定することができるようにする。
	②自己の課題に応じて、運動の行い方や解決方法について考えたことを言語化する。	・児童の気付きや思考の流れをイメージマップで構造化していく。	・単元を通して「もっと面白くするためには？」と問い続けることで、児童が自らの運動を見つめ、探究的に学ぶことができるようにする。
	③自己の課題について、友達と話し合いながら解決しようとする。	・友達同士で動きを見せ合い、教え合いながら課題解決に向かうように促す。	・運動の視点を共有した者同士で話し合ったり、異なる視点から考え直したりする場を設ける。
保健領域	①健康に関わる事象や健康情報から課題を見付け、言語化する。	・身近な生活場面から課題を見だし、解決していく学習過程にする。	・養護教諭と連携した保健室利用のデータや、児童からとったアンケート結果などを授業の中で活用する。
	②自己の健康課題について、解決方法を言語化する。	・習得した知識と自分の状況を関連付けて考えることができるようにする。	・必要に応じてインターネットを用いて調べ学習をしたり、現地調査に向かったりする。
	③自己の課題について考えたことを、友達や教師などに理由を添えて伝える。	・話し合ったり調べたりしたことを、言葉や文章に併せて、表やグラフを用いて伝えるように促す。	・調べたことを互いに交流する活動を取り入れることで、それぞれの考えのよさに気付き、自己の生活に生かすことができるようにする。

家庭科における「言語能力」の整理

家庭科における言語能力
<ul style="list-style-type: none"> ・生活事象から自身の生活の問題点や課題などを見出し、学習問題を立てる。 ・学習問題について、何を学ぶべきか考え、解決策を見出す。 ・実習や製作などの活動を通して、学びを整理し、考察する。 ・身に付けた知識や技能を整理し、次への課題に結びつける。
育成方法
<p>①児童自身の中で実感を伴った明確な概念として形作られるようにすること。 →生活の中で生きた言葉となるように配慮すること</p> <p>②生活の様々な事象を実感の伴う生きた言葉として理解することにより、人が営むことのよさやその価値にふれ、生活への完成を高めていくことができるようになること。</p> <p>③言葉や図表、概念などを用いて、自分の課題に基づき生活をよりよくする方法を考えたり、実習などで体験したことを説明したり、表現したり、話しあったりするなどの活動を充実するよう配慮すること。</p>

育成能力とその育成方法

言語能力	育成方法	育成方法の詳細
①生活事象から自身の生活の問題点や課題などを見出し、学習問題を見出す。	・学習問題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を見つめ、何か問題点はないのか、もっとよりよいものにすることはないのかなどと問いかけ、学習問題の設定への足掛かりとする。 ・気づきを交流したり、教師が価値付けたりすることで学習問題を見出す。
②学習問題について、何を学ぶべきか考え、解決策を見出す。	・学習問題に関して、それを解決するために身に付けるべき知識や技能について考える。	・学習問題の解決に向けて、具体的に何を身に付けていけばいいのかを考え、解決への見通しをもつ。
③実習や製作などの活動を通して、学びを整理し、考察する。	・実習や製作などの計画、活動などをノートにまとめ、得られた結果をもとに、学習問題の解決に結びつけるようにノートに考察を書く。	・結果をより整理しやすくするために、図や表などを活用した整理の仕方を考えてまとめたり、実習や製作などから得られた結果をもとにしたりして、学びを整理する。
④身に付けた知識や技能を整理し、次への課題に結びつける。	・身に付けた知識や技能を整理する。	・今回の学びを整理して、次の課題や自分の生活に生かすことができるようにノートにまとめる。

外国語活動・外国語科における「言語能力」の整理

外国語活動・外国語科における言語能力	
第3・4学年（外国語活動）	第5・6学年（外国語科）
【知識及び技能】	
<ul style="list-style-type: none"> ・言語や文化について体験的に理解を深めること ・日本語と外国語の音声の違い等に気付くこと ・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語と外国語との違いに気付くこと ・読むこと、書くことに慣れ親しむこと ・実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けること
【思考力、判断力、表現力等】	
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと 	
聞くこと	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取ること ・身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かること ・文字の読み方の発音を聞いて、どの文字か分かること 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことや身近で簡単な事柄を表す簡単な語句や基本的な表現を聞き取ること ・日常生活に関する身近で簡単な事柄を表す具体的な情報を聞き取ること ・日常生活に関する身近で簡単な事柄についての短い話の概要を捉えること
話すこと（やり取り）	
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり応じたりすること ・動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うこと ・サポートを受けて、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり答えたりすること 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり応じたりすること ・自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や表現を用いて伝え合うこと ・簡単な語句や基本的な表現を用いて、即興的に質問したり答えたりして伝え合うこと
話すこと（発表）	
<ul style="list-style-type: none"> ・人前で実物を見せながら、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話すこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話すこと ・伝えようとする内容を整理すること
読むこと	
/	<ul style="list-style-type: none"> ・活字体で書かれた文字を識別すること ・活字体の文字の読み方を発音すること ・十分に慣れ親しんだ簡単な語句や表現の意味が分かること
書くこと	
/	<ul style="list-style-type: none"> ・大文字、小文字を活字体で書くこと ・語順を意識して、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したり、連分を参考にして書いたりすること

言語能力とその育成方法

言語能力	育成方法	育成方法の詳細
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や場面、状況などに応じた言語活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や場面、状況などに応じた言語活動を設定する。 ・落ち着いて、安心した言語活動が行える環境づくりをする。 ・言語活動の中で、何とかして伝えようとする場を設定したり、何とかして相手に分かりやすく伝えるように促したりする。

道徳科における「言語能力」の整理

道徳科における言語能力		
【思考力、判断力、表現力等】 多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に話し合ったり書いたりすることができるようにする。		
第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
○課題発見		
・教材文を読み、そこに含まれるよさやわるさを見つけること。	・教材文を読み、そこに含まれる道徳的問題場面に気づき、課題を考えること。	・教材文を読み、そこに含まれる道徳的問題場面に気付くとともに、自分との関わりの中で課題を考えること。
○話し合い		
・自分の考えと友達の考えを比較しながら話し合うこと。	・話し合う中で異なる考えに接し、物事を多面的・多角的に考えること。	・話し合う中で物事を多面的・多角的に考え、協働的に議論すること。
○書く活動		
・書こうとすることを明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。	・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
○考察		
・学習したことを、自分の体験したことと重ね合わせながらまとめること。	・学習したことを、自分の考えや友達の考えと関連付けながらまとめること。	・学習したことを、自他の考え、道徳的諸価値のよさから総合的にまとめること。

言語能力とその育成方法

言語能力	育成方法	育成方法の詳細
①教材文を読み、道徳的問題場面から課題を見いだすこと。	・学習課題を、児童と共につくる。	・教材文を読み、教材に含まれる道徳的問題について整理し、課題を決定する。
②自分の考えと友達の考えを比較しながら話し合いをすること。	・意見の共通点や相違点を明確にしながらか話し合う。 ・少数の意見も大切に、多様な意見のよさを認めながらか話し合う。	・自分の考えと友達の考えを色分けして比較させる。 ・思考ツールを用いて、それぞれの意見の良さや違いを視覚化する。
③自分の考えを、理由や事例を明確にしながらか書くこと。	・教材の登場人物の行為や、自分の経験を根拠にしながらか自分の考えを書かせる。	・理由が明確になるような切り返し発問を活用する。 ・ノートに自分の考えとその根拠を書かせる。
④学習したことを、自分の体験や友達の意見などから総合的にまとめること。	・本時の学習の流れをまとめ、これからの自分に生かせそうなことを考えさせる。	・板書を構造化し、出てきた意見の一つ一つの意味を理解できるようにする。

特別活動における言語能力の整理

特別活動における言語能力			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を、筋道を立てて説明すること。 ・他者の意見を聞いて、その内容を理解すること。 ・対話を通して、情報を吟味したり考えを構築したりして、集団としての最適解を導くこと。 ・自分の課題や目指す姿に対して、集団の中で相互に考えを伝え、深め合いながら解決する目標を決めること。 			
	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
学級活動 (1)	・自分の意見を発表する。	・理由を明確にして考えを伝える。	・自分の言葉で建設的な意見を述べ合う。
	・他者の意見をよく聞く。	・自分と異なる意見を受け入れる。	・相手の立場や考え方を理解し、相手の思いを受け止めて聞く。
	・合意形成を図る。	・集団としての目標や活動内容について合意形成を図る。	・多様な意見のよさを積極的に生かして合意形成を図る。
学級活動 (2) (3)	・正しい方法や自分に合った方法を選んで目標を決める。	・問題を自分のものとして考え、具体的な解決方法や目標を決める。	・自己の問題を受け止め、資料などを参考にして自己に合った実現可能な解決方法や目標を決める。
	・目指す姿について話し合い、出された意見を参考に自分の目標を決める。	・教師の思いや保護者の願いを知り、目指す姿について話し合い、具体的な解決方法や目標を決める。	・自分や周りの人の学校生活への希望や願いを基に、話し合いを通して目標を決め、自他のよさを伸ばし合う。

言語能力とその育成方法

	言語能力	育成方法	育成方法の詳細
学級活動 (1)	①自分の意見を、筋道を立てて説明すること。	・話し合うことについて考えたり、情報を収集したりして、自分の考えをまとめる。	・提案理由を明確にし、「視点」として示すことで、自分の意見の根拠として述べるよう促す。
	②他者の意見を聞いて、その内容を理解すること。	・自分の考えと比べながら聞き、共通点や相違点について考えさせる。	・発言する際に、他者の意見との共通点や相違点を明確にして述べるよう促す。
	③対話を通して、情報を吟味したり考えを構築したりして、集団としての最適解を導くこと。	・意見の違いや共通点をはっきりさせながら話し合う。 ・少数の意見も大切にしながら、多様な意見のよさを生かして学級全体で合意形成を図る。	・思考ツールを用いて、たくさんの意見を段階的に絞っていきながら、意見を吟味する。 ・提案理由を基にした「視点」ごとに色分けした賛成マークを使い、それぞれの意見の良さを比較しやすくする。
学級活動 (2) (3)	④自分の課題や目指す姿に対して、集団の中で相互に考えを伝え、深め合いながら解決する目標を決めること。	・現状を分析し、課題となっているものを探る。 ・分析した課題の解決策を、他者と交流しながら考える。 ・個に応じた具体的な実践方法や目標を決める。	・学級の現状を調べたり、自分の現状や目指す姿について考えたりする。 ・課題となっているものを集団で共有し、共感的に話し合うことができるようにする。 ・「すぐにできそうなこと」「先々できるようになりたいこと」と段階的に意思決定させることで、より具体的な目標として実践に向かうようにする。